

2006年 第2回 IEEE 福岡支部理事会議事録

日 時：平成18年6月29日（木）12：00～16：00

場 所：（財）九州システム情報技術研究所（ISIT）第1会議室

出席者：

支部役員： 二宮、宇津宮、末次、田口、村尾、庄山、生野、笹尾、後藤、匹田

事務局： 牛島（好）、川根

（以上、12名）

議 題：

1. 前回議事録の承認（末次）ExC-2006-2-2

前回2006年第1回 IEEE福岡支部理事会議事録の概略を読み上げ承認を得た。メールで事前に回覧していることもあり修正はほとんどなかった。項目10電気関係学会九州支部連合会の加盟について、「Aグループは会員数千人規模」のところは「Aグループは会員千数百人規模」に修正された。また、Student Branchはやはり九大にも作るべきで、そのために様々な国際会議のStudent paper contestに積極的に応募するよう働きかけることによって学生会員を増やす努力をしていただきたいという発言があった。

2. JC理事会報告（二宮）ExC-2006-2-3

JC理事会で福岡支部のChapter Operations CommitteeをChapter Promotions Committeeに名称変更する件が承認された。Student Branchは現在16校あり名工大が新設の予定である。IEEE PresidentのLightner氏との話し合いではIEEE Japan設立についてかなり厳しい状況にあるが、今後の対応を検討する。福岡支部が電気関係学会九州支部連合会に加盟したことを報告した。Japan Council History Committeeが設置され、福岡支部代表として原田耕介氏（九大名誉教授、IEEE Fellow）を推薦した。3月1日東京パレスホテルで東京支部50周年記念セレモニーが開催された。

3. Region 10 Meeting (Chiang Mai)報告（末次）ExC-2006-2-4

2006年3月26日と27日にChiang Maiにおいて行われたR10 Meetの報告がなされた。当初参加予定だった宇津宮副支部長は所用により末次庶務幹事が参加してきた。今回のR10 MeetにはIEEEトップがIEEE Past President, IEEE President, IEEE President Candidateの3代にわたって参加していた。IEEE President Lightner氏はTrans-nationalism（国と言う概念を超えた国際協力）を訴えていた。IEEE Past President Anderson氏はVolunteerismの貢献を訴えていた。President CandidateのTerman氏はIBM出身で財政状況の悪いSocietyがある点を指摘し、基準を設けて財政を改善したいと言う抱負を述べていた。President CandidateのVig氏はロシア系で国の機関出身で、IEEE memberの50%はSocietyに入っていない点を指摘し、その原因をIELを機関購読していれば各自がSocietyやIEEEに加入しなくても全部の雑誌を見ることが出来る点にあると述べていた。IEEE加入者を増すためにインセンティブを増したいという抱負を述べていた。

Membership DevelopmentではFinancial Advantage Program(FAP)として会員クレジットカードを作る方法を紹介していた。President Lightner氏からIEEE Liaison office in Chinaの開設について説明があった。中国の法律上物理的な事務所が必要なため開設したものであって、決してIEEE Chinaではないと強調していた。R10 Advisory Committeeを設置したいというDirectorからの提案に対して多くの異論があり、2日目に持ち越され投票して設置が決定した。TENCON2010の開催地が募集されていた。R10内のほとんどの国で開催されているのに日本だけまだ開催されていないとのこと。その他TENCON2005の報告などが行われた。次回R10 MeetはマレーシアのBorneo島、Kota Kinabakuで開催される。

4. 2006年支部活動状況及び会員数の報告（事務局、末次） ExC-2006-2-5

2006年度予算執行状況について説明があり、Rebateは、2006年3月に追加rebate72,355円と2006年6月に637,911円の入金があった。支出としては学生奨励賞の賞品、賞状、額縁代が154,585円、昨年10月のSection Congress旅費補助の56,840円、ホームページビルダ10を購入した12,420円が計上された。今後予定としては学生奨励賞などのためのSection支援費が20万円入金され、支部連合会分担金が3万円支出され、Chapter RebateはAPとDEIについては追加ボーナス\$75が付いてきたので、Chapterボーナス\$200に合わせて振り込まれる。

会員数については5月15日の段階でActive639人（前年5月16日604人）であり順調に増加している。但し、滞納者が前年5月16日60人であったのに対し5月15日90人と大幅に増えている。フェローとシニアの人数はわずかな変化しかなかった。Student Memberを増やすために入会パンフレットを取り寄せて配っても良いだろう。

5. 福岡支部学生研究奨励賞について（庄山） ExC-2006-2-6

例年通り11月1日締め切りとして学生奨励賞論文を募集する。応募できる論文は掲載済みのものであって採録が決定しただけの段階では応募できないことにする。応募メリットが、応募時点で元々会員の人には全くないので検討されたが、新規入会を促進するのが目的であるので従来どおりとした。応募書類の提出方法を紙に印刷したものからメールの添付ファイルに変更する。査読者とのやり取りも今回からメールの添付ファイルに変更したい。来年2月に行われる表彰状へのサイン記入は、現支部長は任期切れのため次期支部長が行うこととなった。

6. 電気関係学会九州支部連合会加盟のその後の経過（二宮） ExC-2006-2-7

5月25日の電気関係学会九州支部連合第1回役員会において加入が承認された。この承認は各加盟学会の支部で承認し、全ての支部が承認したため承認された。連合会は当番学会が電気学会、電子情報通信学会、情報処理学会の3学会。副当番学会が映像メディア学会、照明学会、電気設備学会、日本音響学会、IEEEで負担金年3万円である。理事会は年2回5月と9月に行われる。連合会役員に理事としてFukuoka Section Chair、役員としてFukuoka Section Vice Chair、庶務幹事としてFukuoka Section Secretaryを推薦した。今年の電気関係学会九州支部大会は9月28日と29日宮崎大学で行われる。アジアセッションはAPとCチャプターがセッションを組む予定。他のチャプターも提案できればして欲しい。APチャプターが独自にアジアセッションを共催したいという申し出があり、九州支部大会全体をSectionが主催しているので重複するという点が議論されたが承認された。

7. TENCON2010立候補の是非について（末次） ExC-2006-2-8

R10 Regional Conference Coordinator 朴教授からTENCON2010を福岡で開催してはどうかという誘いがあり検討を始めた。TENCON2005（メルボルン開催）の規模は登録者約500名、8-12 parallel session、メンバーフィー\$462, 一般\$525、Student\$308。2010年は次の次のChairのときの開催になる。固定のWorking Groupを作って準備する必要がある。9月までに立候補するには準備が不足しているのではないか。朴氏に会ってもっと情報を得てメールで連絡し、何らかのWorking Groupを立ち上げる。少なくとも将来5, 6年中には何か国際会議を引き受けることを検討する。

8. その他（末次）

広告規程に関する調査結果ExC-2006-2-9

調査の結果、支部でのWeb広告は可能で、料金設定も独自に本部の承認を得ずにやってよいことがわかった。（IEEE Staff Director Advertising Business Jim Vick氏に問い合わせ。RAB Operations Manual Appendix II, 6.3.5. Iに規定）但し、国内的には収益事業であるため課税される恐れがある。額が小さくてもちゃんと処理しておかないと支部長個人に責任が問われるので慎重な取り扱いが必要である。IEEE本部の規定に関する調査結果についてはJCに報告したい。国内的な取り扱いについては今後もう少し調査したい。

福岡支部Bylawsに関する調査結果ExC-2006-2-10

Section CongressにおいてSection Bylawsは廃止され代わりにRAB Operations Manual + Addendumが用いられることが連絡されたが、JCに問い合わせたところ東京支部ではこの件について聞いておらずBylawsを変更する予定はないとのことである。しかしながら、現在のBylawsを使い続けた場合、現状の運営体制との食い違いがあり、またBylawsのままでは今後の改正が行えないので近いうちに本部の方針通りAddendumに切り替えたほうが良いだろう。このとき、現在のBylawsは初代支部長らが考えたもので、そのときの考えと言うものを聞いておく必要があるのではないか。現在の役員は任期切れが近く手続き途中で交代になってしまうかもしれないので次期役員で手続きするよう引き継ぎ事項にする。

IEEE Chapter Rebateの支部チャプターへの送金について（資料無し）

例年通り、本部から入金されたChapter Rebateは各チャプターに全額送金される。APとDEIについては追加ボーナス\$75が付いてきたので、Chapterボーナス基本額\$200に合わせて振り込まれる。なお、APは誤入力によるボーナスであるとのこと\$75の受け取りを保留している。

Section支援費申請予定についてExC-2006-2-12

支部事務局運営費として例年通り5万円、学生奨励賞支援費として20万円を申請することにした。学生奨励賞支援費は昨年は10万円と追加申請5万円の計15万円であったが、実際には25万円以上の経費が掛かっており、一層充実して応募者の増加を図りたい。

次期役員選出の日程ExC-2006-2-13

現在のBylawsに従った場合、すでに時期が過ぎている事項もある。Addendum templete

が現在の運営体制に最も合致した形になるため、Addendum templeteに従うとすると、8月末までにNominating Committeeを決める。例年牛島先生にNominating CommitteeのChairをお願いしている。9月15日までに候補者を決める。10月15日までそれ以外の立候補を受け付ける。10月30日までに投票を締め切る。各役職に立候補が一人しかいなかった場合Section Executive Committeeにおいて次期役員を承認する。

9. 次回の理事会について

次回理事会は特別に必要なければ来年1月末とする。次回は次期役員も参加する。ASPDACという国際会議と時期が重なるので考慮する。

議事録作成：末次